

さくら第514号

令和4年 10月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬重雄
 春江町境 17-7: Tel 51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp

とまか
 具体的に動いて
 具体的に動けば
 具体的な答えが
 出るから
 出たて

『好きこそもの上手なれ』

「好きこそもの上手なれ」という諺を耳にしたことがあるでしょう。学校で学習する勉強や運動などでも、自分が楽しいと感じていることには集中して取り組みますが、イヤだな、やりたくないな、好きじゃないと思うことには積極的に体が動かず、仕方なしにやるからよい結果を得ることができないようです。

好きなことに夢中になっているとアツという間に時間がたち、もうこんなにかやっていたのか、それにしても疲れていないし気持ちよかったという思いをしたことがあるでしょう。

楽しい時間はすぐに経つけれど、イヤな事、気のすすまない時はとても長く感じます。

仲良しと過ごす約束をすれば待ち遠しいですが、そうでない人との話しには気がすすまず何か用事ができて、合えなくなると思ったりもします。

ところで冒頭のことわざは450年余り前の桃山時代に豊臣秀吉の茶道の師として活躍した千利休(せんのりきゅう)が茶道のあり方について弟子に語ったことが由来といえます。

もともとこの句は、「器用さと稽古と好きの そのうちで好きこそもの上手なりけれ」といいます。また、「上手には好きと器用と功績むと、この三つそろそろ人ぞ能くする」があります。功を積むとはたゆまぬ研鑽・修行をいいます。

今から約2500年前の中国で孔子(こうし)の教えをその後弟子がまとめた「論語・ろんご」のなかに、「これを知る者はこれを好む者にならず、これを好むものはこれを楽しむ者に

かなわない」といわれています。

これは、物事を知識として知っているだけの者は、これを愛好する者にはかなわない、さらに、これを愛好する者は楽しんでこれと一体になっている者にはおよばないという意味。

でも、好きでないことでもその中に少しでもおもしろそうだな、試しにやってみようか、などと思う所がないかさがしてみましよう。

最初はつまらなそうだなと思うことでも、力いっぱいチャレンジしていくうちに、アレッ！おもしろそうだな。ちょっとやってみるか。と興味をもつことがあります。チャレンジしてください。

「食わず嫌い」というたとえがあります。見た目が悪い、まずそうだ、今まで食べたことがないからやめておこうと悪いイメージが残っているかも知れませんが、思い切って食べてみると、好きになることがよくあります。

私はカリフラワーやアスパラを食べる気がせず避けていましたが、ある時、ものは試しとこわごわ口にすると、何とか食べられ、その後は好きになりました。

みなさんの中には、好きだから、おもしろそうだから、楽しいみたいだからというんな事にチャレンジしていることがあるでしょう。

ほかの人から見ればあの人はそんな事をなぜ楽しそうにやっているのか不思議と思うかも知れませんが、人に迷惑をかけなければ好きなことをやってみましよう。

ある3年男子は草花が好きで花の名前をとでも多く知っています。どのような育て方をすればきれいな花が多く咲くのかを図鑑などでも調べ、時には家族と植物園にも行き知識を深めており、ヒマワリが一番好きと言います。

興味が増すとさらに調べるのでドンドンよい方向へと発展します。

時には体調が悪くなったりやる気の起きない時があっても、はやく元気になって好きなことを続けたいという思いが自信になります。

自信が増すと今まで苦手と思っていた事にも挑戦しようという前向きの気持ちが強くなり、元氣と勇気がわき頑張るぞと前進します。